



歴史と文化のいきづくまち
林田
ぶらり散策



感動体験 姫路まちなかあるき

林田はやしだ

林田の元元とてご紹介します

八幡神社



寛平5年(893年)5月に林田8か村の有志36人が国土安穏・子孫繁栄のために京都山城の石清水八幡宮から八幡の神を迎えて創建したと伝わる。江戸時代には林田藩主建部家が10代250年に渡り、産土神・祈願所として崇敬し、藩主政宇(まさいえ)・政賢(まさかた)・政醇(まさあつ)が奉納した灯籠が3つ並んでいる。秋にはもみじが参道を彩る。

祝田神社(はふりだじんじゃ)



927年完成の延喜式に「祝田神社」の名が見え、「式内社」とよばれて古い歴史を持つ神社である。寛治7年(1093年)に林田が京都の上加茂神社の社領となった時、貴船神社の御神体を迎え、当初から祀っていた罔象女命と共に祀ったので「貴船神社」又は「貴船大明神」と呼ばれていた。建久3年(1192年)に社殿を再建した時に、社号を「貴船神社」とし、罔象女命を祀った祝田神社はその奥宮に祀られた。明治16年4月に焼失し、再建時に祝田神社と改称する。また、近年では平成18年に公開された韓国映画「風のファイター」のロケ地にもなった。

林田温泉 ゆたりん



2007年4月1日にオープン。温泉は深さ1338m、約2億千万年前の堆積岩(丹波層群)の割れ目から湧き出している。無料駐車場やレンタルサイクルを完備しており、林田散策の拠点として大変便利。散策の最後には、疲れを癒す温泉をぜひ。農産物の直売所やお土産、レストラン・里山など施設内外も充実。

入湯料大人600円、小学生300円。
休館日は毎週月曜日(但し、祝日の場合は翌日)

伊勢自然の里・環境学習センター



子どもから大人まで、様々な世代が楽しみながら環境の保全について学習できる場として、平成16年4月24日に開設した自然体験型の環境学習施設。この施設では、メダカやドジョウ、タガズやゲンゴロウなど、既に見ることが少なくなった生き物が生息できる環境を守り育てていくため「田んぼピオトープ」を中心とした生き物の生息空間を多様に整備するとともに、年間を通じてさまざまなイベントを開催している。開園時間は午前10時~午後4時30分。休園日は月曜日・12月28日~1月3日(但し、月曜日が祝日の場合は翌日)。無料駐車場完備。入園無料。

～城下町のおもかけを訪ねて～

林田大庄屋旧三木家住宅



林田大庄屋旧三木家住宅

格子戸の町屋

林田町六九谷は旧因幡街道の街並みが残っており、格子戸の町家が昔の風情を醸しだしている。



長谷川家住宅(解説は英語)



敬業館

寛政6年(1794年)林田藩主建部政賢が幕校として建設。文久3年(1863年)に火災にあったが、当時の藩財政の厳しい時であったにもかかわらず、その重要性から1年足らずで再建した。当時の藩校では、士族の子弟は8歳になると必ず入学し、16歳で卒業した。また、庶民の志願者にも入学を許可するなど、士庶共学として全国的にもめずらしい藩校であった。聖廟、練武場、文庫などの建物もあったが、現在では講堂だけが残り、明治以降は小学校、村役場、公民館にも活用された。平成4年に姫路市指定文化財となり、今も松平定信の書いた「敬業館」の額が講堂正面に掛けられている。

林田・伊勢の歴史文化遺産をめぐる…

長谷川家住宅(非公開)

弘化5年(1848年)に建築された長谷川家住宅は平成5年3月に姫路市の都市景観重要建築物に指定されており、姫路から山崎に通じる因幡街道の宿駅として栄えた林田街道筋の雰囲気をのこしている。



道林寺

貞享2年(1685年)に前身の觀音堂から真言宗の修行道場となり、享保年間に順正により開基する。山号を月輪寺(がつりんじ)といい、開創な所で林田八景の一つに数えられる。寺内には収蔵館教授で吉野義古の漢詩で知られる河野鉄兜の墓碑がある。また、文政8年(1825年)の石鳥居があり、当時の神仏混濁のなごりを今に伝えている。



林田陣屋跡

陣屋跡が残る聖岡は、通称御殿山とよばれ、建部氏の林田藩1万石陣屋があった。現在では、石垣や堀の一部や林田初代藩主政長を祀る建部神社が残るが、当時は周の周りに濠をめぐらし、東側は2重濠で、濠の外は荷屋敷、東側の街道筋は町屋があった。

塩阜神水(しおおかしんすい)

播磨國風土記に記載があり、海から3里(約12km)離れているが、3丈(9cm)ばかりの湧き水が海水と同じ満ち引きをすると伝えられている。磯の側には、旧龍野藩主坂安之氏の歌碑がある。



歴史の道を ゆっくり散策



薬師寺と芭蕉の碑

林谷にある薬師寺は寛文11年(1671年)に善澄元が開基した。寺内には、京都の池田屋事件で倒れた大高又次郎をはじめ旧藩士の墓が多い。また、松尾芭翁の句碑があり三角錐状をした安山岩の自然石で造られている。



素麺瀧瀨之碑(そうめんらんしょうのひ)

江戸時代末期に攝津郡で素麺業が起り、林田町でも冬の現金収入として盛んになった。この碑は、明治20年に攝東・攝西両郡素麺製造組合をつくり、良質の麺を製造して販路を広げていった過程と素麺業に功績のあった薄野利正を讃えたものである。



林田まちなかあるき



西池(鴨池)と琵琶山

西池は初代林田藩主建部政長が水利に苦しむ領民のために、水路とともに築いた。景色の美しい西池は林田八景の一つとして数えられ、当時は建部氏の別荘もあった。このとき、西池を禁制区とし権にえさを与え保護したことから、地元では、醤油の名前で親しまれている。



白髭神社

貞享5年(1688年)に創立され、猿田彦命を祀る。境内には、寛政9年(1797年)の御神灯や明治42年に国有地宇宮ヶ谷を開拓した記念碑がある。



多賀八幡神社

当初は八幡神社として、養田別尊(赤祖天皇)を祀っていたが、明治39年に豐受大明を祀っていた多賀神社と合祀され、現在に至る。



法善寺

明応9年(1490年)に大納言伴善男から16代目の孫である神左衛門尉忠長が草庵を構えたのが始まりである。



伴善男(ともよしお)の墓

大納言伴善男は平安時代の有能な政治家であった。応天門焼失の犯人として伊豆へ流罪となりたというのが一般説であるが、峰相記では、播磨国に流罪となり、「彼墓所は西川合に有る也」とある。



伝久寺

毛利元利が浄土真宗に帰依して道順と号し、永禄元年(1558年)に建立して開基となる。弘化3年(1846年)に焼失し、安政3年(1856年)に再建される。



櫻神社(なぎじんじゃ)

櫻神社は草原飯粒が櫻の大木を切り倒した際に天照大神を祀ったことから名付けられたと傳わっている。境内には明治時代の伊部焼(備前焼)の狛犬がある。

